

第4章

事務組合資料



消防本部・西消防署庁舎及び訓練棟を北西より空撮(平成25年度)

管内状況

入間東部地区管内は、埼玉県
の南西部に位置し富士見市・ふ
じみ野市・三芳町の2市1町で
構成され、東は荒川を越えてさい
たま市、西は所沢市、南は志
木市・新座市、北は川越市に
接しています。地勢は、ほぼ平
坦な地域で、火山灰土かなる、
関東ローム層の地質からなって
います。管内面積は49.74平方
キロメートル、1本部2署3分
署、職員286名体制で組織して
います。



消防本部・西消防署庁舎及び訓練棟を南西より空撮(平成25年度)



構成市町の面積と人口

令和2年4月1日現在

区分	面積(km ²)	世帯数(世帯)	人口(人)	消防職員1人当たり人口(人)
富士見市	19.77	52,493	111,936	391
ふじみ野市	14.64	52,655	114,477	400
三芳町	15.33	16,608	38,198	134
合計、平均	49.74	121,756	264,611	925

消防施設配置図



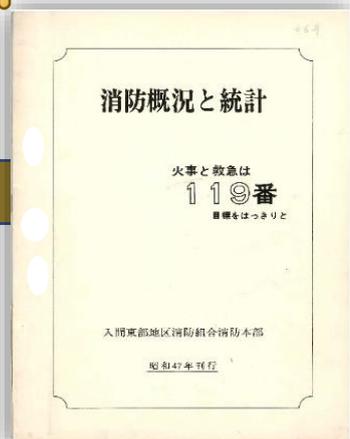
 消防本部署
  消防署
  分署



 消防分団機器置場

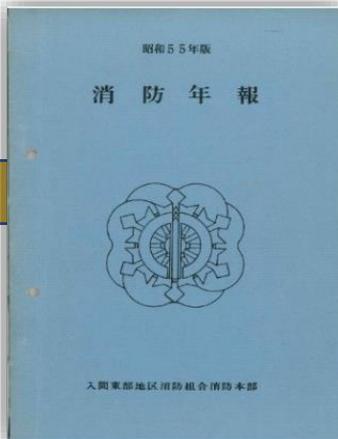
富 : 富士見市消防団
 ふ : ふじみ野市消防団
 三 : 三芳町消防団

消防年報のあゆみ



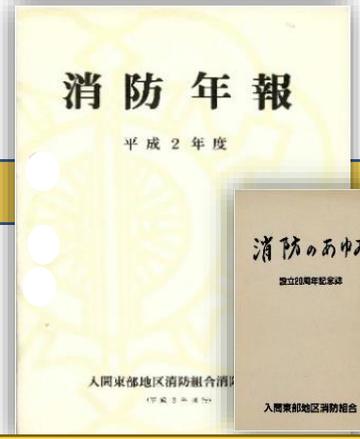
昭和46年度版(昭和47年刊行)
設立1周年

1色刷りB5判で刊行された創刊号。福岡町、富士見町、大井町、三芳町4町をもって消防の一部事務組合を設置発足常備化とし、消防団と共に一体となって消防力を強化し、1本部(福岡町)1署3出張所として消防業務を開始して概要を「消防統計」としてまとめ消防現況を伝えています。



昭和55年度版(昭和56年刊行)
設立10周年

表紙には2市2町を四つ葉のクローバーとして配し、昭和47年4月から富士見市、上福岡市、大井町、三芳町2市2町をもって本部が大井町に移転され、新たに2出張所が開設され1本部1署5出張所として消防力の強化についての現勢と主要な消防事情等の状況について紹介しています。



平成2年度版(平成3年刊行)
設立20周年

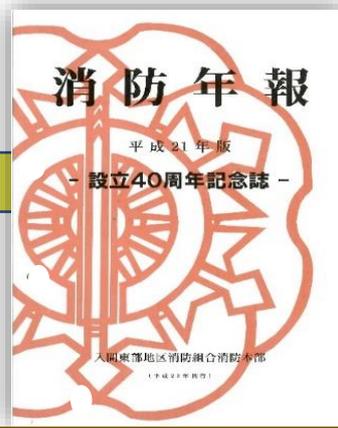
2市2町で構成され組合設立20周年を迎えたことを記念として、記念誌「消防のあゆみ」の発刊をしています。記念式典では、消防行政の発展に寄与された方々に対する表彰、消防音楽による定期演奏会など盛大に挙行、組織改正により1本部3署3分署と充実強化について紹介しています。

消防年報のあゆみ



平成12年度版(平成13年刊行)
設立30周年

2市2町で構成され組合設立30周年を迎えたことを記念として、記念誌「消防のあゆみ」の発刊をしています。急激的な宅地開発により、年々充実強化され安全体制が整備される中、近年出動要請の多い救急業務に対し救急高度化推進計画に基づき、高規格救急自動車の配備体制などの様子を伝えています。平成8年度版からA4判の大きなサイズで発刊しました。

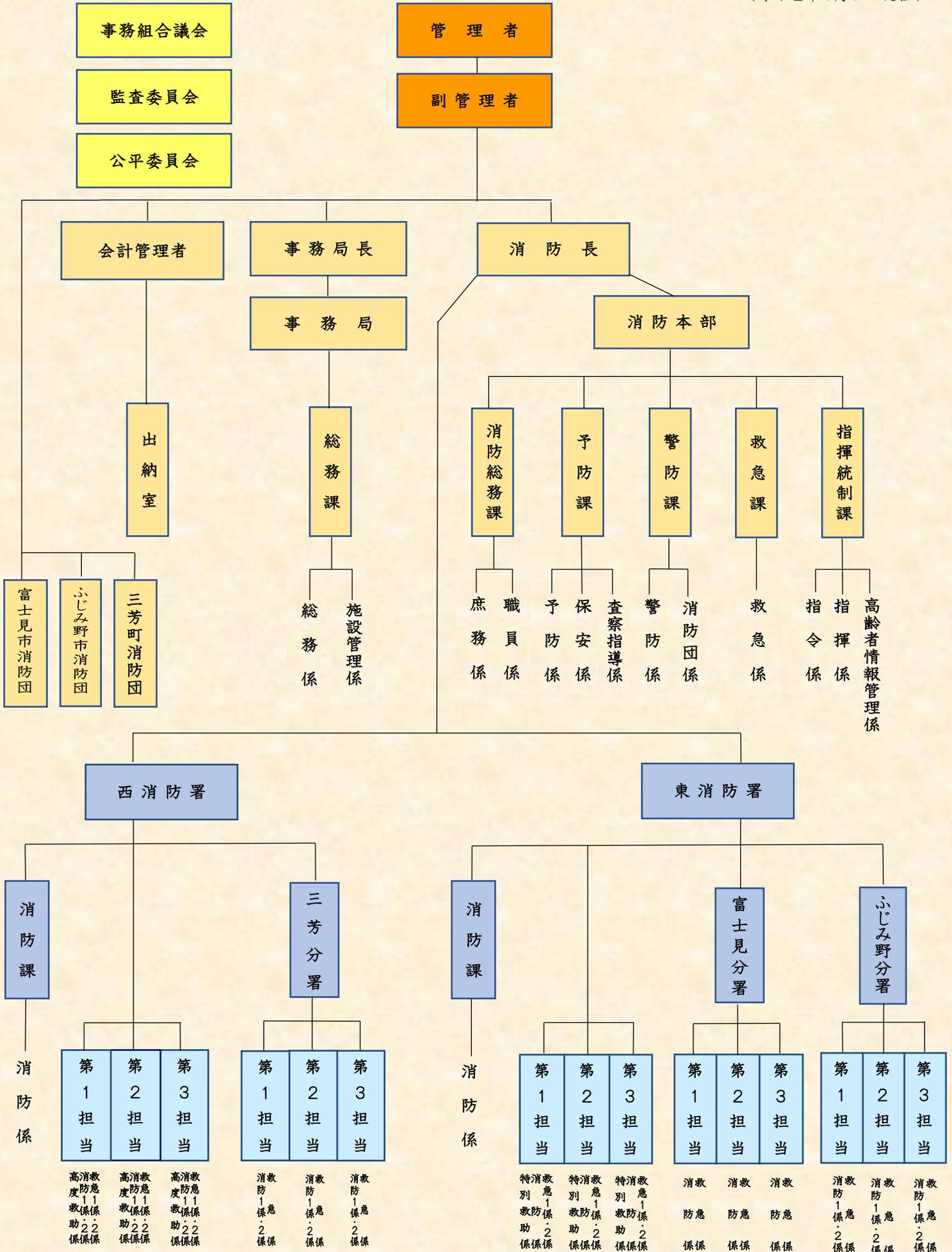


平成21年度版(平成22年刊行)
設立40周年

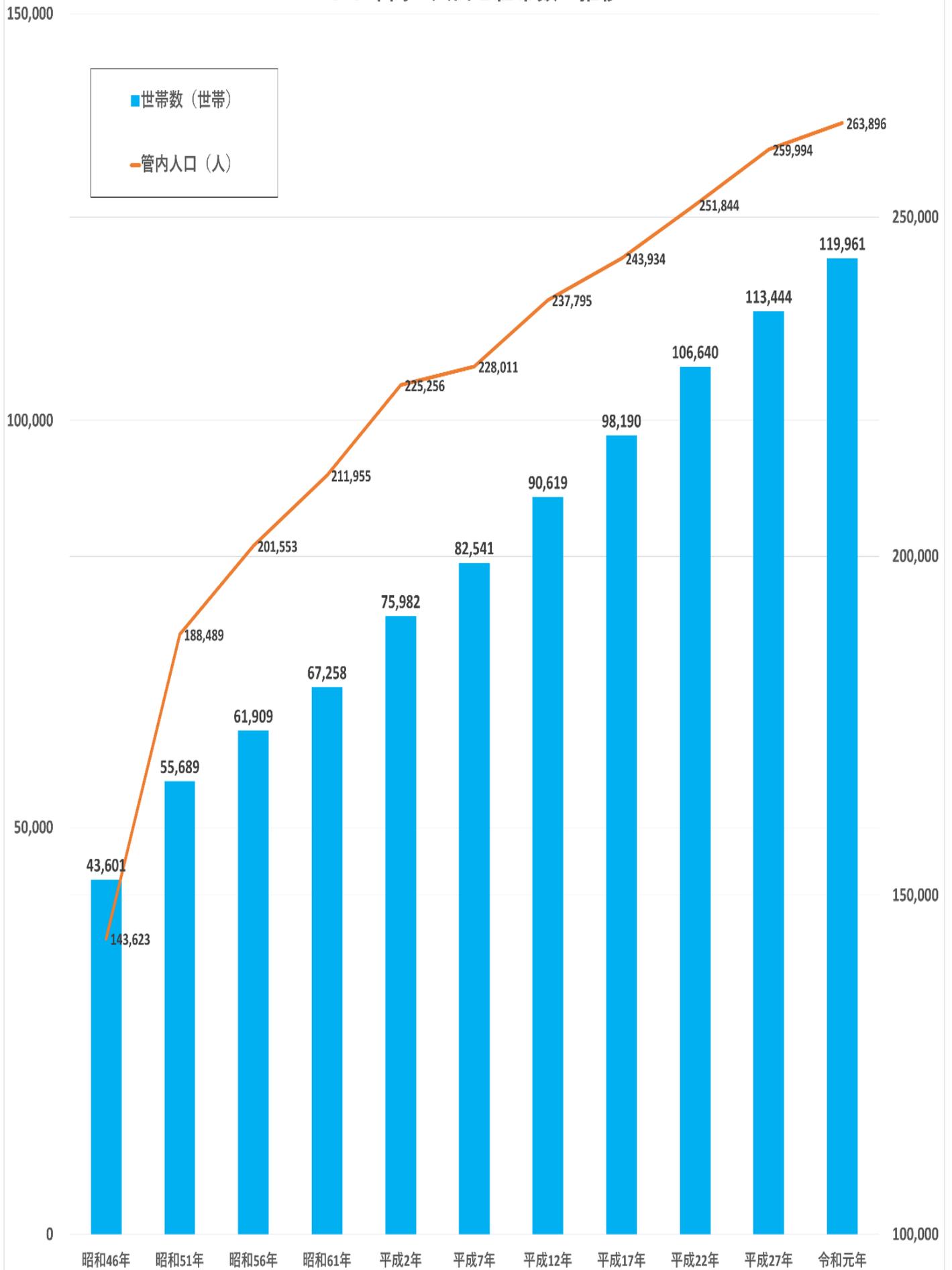
平成17年10月に上福岡市・大井町が配置分合により「ふじみ野市」が誕生し2市1町で構成され、組合設立40周年を迎えての記念として「消防のあゆみ」を消防年報に組み込み発刊しています。全国初の聴覚障害者を対象とした防災訓練や当組合消防訓練場において埼玉県消防救助技術指導会が開催されるなどの様子を伝えています。

入間東部地区事務組合機構図

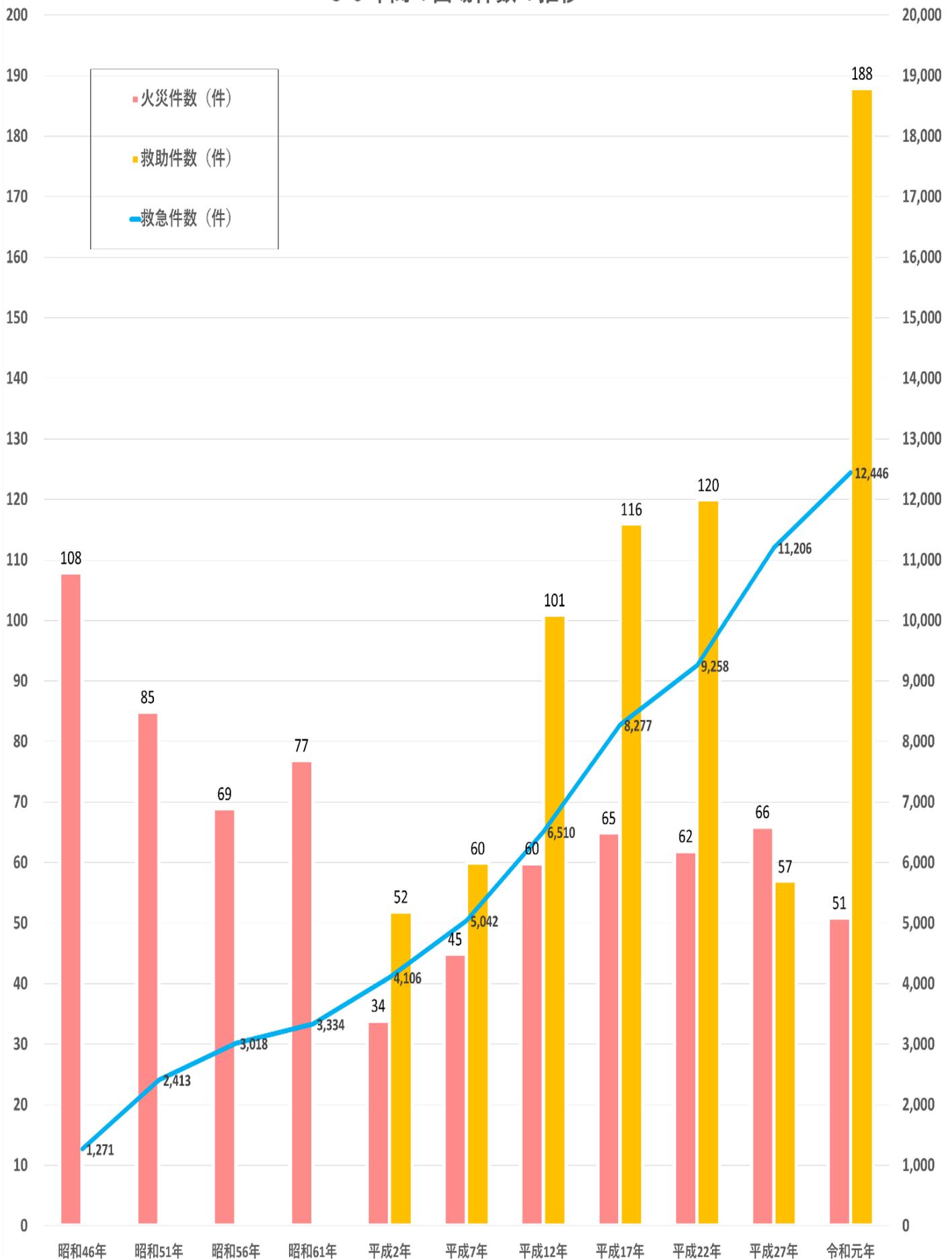
(令和2年4月1日現在)



50年間の人口と世帯数の推移



50年間の出場件数の推移



※救助出場件数は平成2年から集計開始

紋章(消防隊・救急隊・特別救助隊・高度救助隊)

消防隊



平成14年2月22日制定

消防隊の紋章は、四つ葉のクローバー、消防章をモチーフとしています。組合発足時の二市二町(富士見市・上福岡市・大井町・三芳町)が力を合わせて発足した一つの消防組織であるという観点から四つ葉のクローバーを配置し、その中央に消防章と入間東部地区の頭文字の英語表記「I・T」を円経形にデザインしたものを配置しています。構成市町の住民の「命を救い、街を守る。」という使命を自覚し、住民の期待に応えるという意味を込めて、消防隊のシンボルマークとなったものです。

救急隊



平成14年11月22日制定

救急隊の紋章は、救急救命のシンボルマークとして世界的に使われているスターオブライフをモチーフとしています。スターオブライフは、青い6本の柱から構成され、それぞれの柱に覚知、通報、出場、現場手当、搬送中手当、医療機関への引き渡しの意味があります。また、杖は、優れた医術から医学の象徴的な存在となったアスクレピオスが持っていた杖を中央に配置しています。目の前で危機に瀕する傷病者に対し、痛みの軽減、悪化の防止、迅速な救急搬送を任務とする救急隊が緊急的な状況で優れた救急活動を発揮できるよう願いを込め、このシンボルマークとなりました。

特別救助隊・高度救助隊



昭和63年7月25日制定

特別救助隊の紋章は、ゴリラをモチーフとしています。ゴリラは、動物の中でも力が強いことで知られており、群れで生活していることから結束力が強く、家族を大切にする優しい動物です。そのゴリラのもつ力強さ、結束力、家族を愛する優しさが、特別救助隊のもつ屈強さ、仲間との強い絆、要救助者に接する優しさと相俟って、特別救助隊のシンボルマークとなりました。



平成30年10月1日制定

高度救助隊の紋章は、特別救助隊の紋章を基に金色をベースとし、背中中の毛が白いゴリラ「シルバーバック」をモチーフとしています。シルバーバックは、ゴリラの中でも危機管理能力が高く、優れたリーダーであると言われています。震災等の困難な現場において、高度救助用資機材を使用し、最前線での現場活動を任務とする高度救助隊のあるべき姿と重なり、高度救助隊のシンボルマークとなりました。